

BONX、リコーと約4.5億円の大型資本業務提携を締結。

会話ビッグデータ活用による新たな価値創造を目指す。

グローバル140万社の法人顧客を抱えるリコーと協働し、オフィスや現場の働き方改革に力を注ぐ

株式会社BONX(東京都世田谷区 代表取締役 宮坂貴大)は株式会社リコーと4.5億円の大型資本業務提携を実施いたしました。BONXは、創業者宮坂の「スノーボード中に仲間と話したい」というニッチなニーズから生まれた「常時接続による“距離の制限を超えた感情の共有”」という、普遍的で革新的なコミュニケーション体験を生み出してまいりました。主にスポーツマーケットでの展開に加え、昨年12月からはビジネスマーケットのニーズに応える形で、ビジネス用の音声コミュニケーションツール「BONX for BUSINESS」をスタート。さらなるユースシーンの拡大/ビジネスモデルの多様化を進めるべく、今回リコー社と業務提携を結ぶに至りました。具体的な協業の目的は以下の通りです。

今回の協業の目的

- 1) 「いつでもどこでもすぐつながる」BONXの普及。スマホ一つで、距離の制限なく、簡単に会話開始なBONXのソリューションを、リコーの強みである顧客接点力・サポート力によって一気に拡大することで、企業が持つ音声コミュニケーションの課題を解決させる。
- 2) 「色々なサービスにつながる」外部サービス連携の加速。働き方改革のツールとして好評なインタラクティブホワイトボードなどのリコー製エッジデバイスに両社の技術・ソリューションを組み込むことで、提供価値を向上させ、企業の働き方改革への取り組みを支援。
- 3) 「データが新たな価値につながる」会話ビッグデータ活用の促進。会話データをテキスト化し保存するだけでなく、蓄積された音声コミュニケーションデータを活用する事で、職場環境のモニタリングや効率化に活かすなど新たな価値を提供。

現在の活用例

大手総合商社

映像制作会社

物流

小売

導入前の課題

海外出張が多く、情報共有のためのミーティングやメールが大量になり業務効率が悪化していた

生放送時においてスタジオと現場の連絡手段が電話しかなく、スタジオからの指示がなかなか行き渡らない

オフィスと複数の倉庫間における荷物の行き来の状況把握のためにあちこちに電話をかける必要があった

ヘルプを呼びたい場合、わざわざ店舗内アナウンスを行う必要があり、業務にスピード感がなかった

導入後の効果

音声ですぐ情報共有できるためミーティングやメールの数が減り、本来時間をかけた業務に集中できるように

距離を超えてスタジオと現場がつながることにより、生放送の円滑な進行及び番組のクオリティアップに成功

オフィスと複数倉庫が繋がることで電話本数・会話時間が3分の1以下に減少。スムーズな連携が取れるように

誰が店舗のどこにいてもすぐにヘルプや仕事の指示を伝達できるようになり、業務効率が大幅にアップ

配送業務のオフィスと倉庫間で使用



生放送でスタジオと現場間にて使用



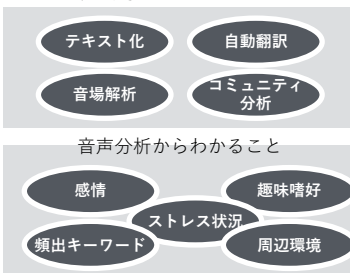
会話ビッグデータ活用イメージ



分析対象



直接的アプリケーション



直接的なお客様の課題解決に貢献

収集・解析によりお客様の状況を把握し更なる価値創造に活用

BONXのコミュニケーションはインターネットを通じて実現されるため、これまでは完全にオフラインだった“現実世界での会話”をオンライン化することが可能になりました。今回新たなパートナーとなったリコー社の強みである“顧客接点・サポート力/様々なエッジデバイス”とのコラボレーションにより、BONXならではの付加価値を一層創造してまいります。

【本リリースに関する報道関係者の皆様からのお問い合わせ】

info@bonx.jp

<BONXの概要>

BONX Gripは、革新的なウェアラブルコミュニケーションデバイスとして開発されました。片耳に装着するデバイスとアプリケーションを組み合わせ使用します。スマホにBluetoothを接続する仕組みなので、携帯電波の入るところであれば、超遠距離・悪天候・高速移動中でも会話が可能です。独自のグループ通話アプリとを組み合わせ使用することで、お互いがどこにいても、まるで隣にいるかのように仲間と会話ができます。デバイス内蔵のデュアルマイクが発話者の声を拾い、スマホアプリに送信し、アプリが3G/4G経由でグループ内の全員に声を届けます。免許は不要、混信の心配もありません。

<BONXの特徴的なテクノロジー>

○革新的な発話検知

人の声だけを高精度で検知するため、通話開始後はスマホ操作の必要がなく自動的に通信し、会話を可能にします。近くと遠くの人の声を判別、さらに機械学習により周囲の騒音環境に合わせて音声を自動的に最適化します。

○不安定な電波環境でも接続を維持

誰かの電波状況が悪化しそうなときは音声で通知。接続が切れても、自動的に再接続処理を行うため、電波状況の回復を待ち、自動的に会話を復旧します。

○アクティビティ中の使用に最適なタフで安全な構造

防水性 (IPX5) と耐衝撃性を完備。独自のプロダクトデザインにより、会話中でも周囲の音が聴こえる設計で安全、かつ長時間でも快適にご使用いただけます。

○エクストリームな環境のためのノイズキャンセリング

デュアルマイクによるデジタルノイズキャンセリングなど、多面的な風切音対策を施すことで、激しい向かい風の中でもクリアな会話が可能です。

○データ通信やバッテリーを最小消費

会話に利用している時のみ通信するため、通信量やバッテリー消費も節約できます。アクティビティ中にBONXを使用して会話(*1)した際、他社通話アプリに比べて約20%(5MB)しかデータ通信を行いません。

*1：60分間、話す：聞く：沈黙=2：2：6の割合で会話。



<BONX for BUSINESSの概要>

BONX for BUSINESSは、スマートフォンを使って、30人までの音声グループコミュニケーションを簡単に実現します。お手持ちのマイク付きイヤフォンでの使用はもちろん、純正ヘッドセット「BONX Grip」を使えば、更に便利に使うことが可能です。

BONX for BUSINESSは、従来の無線電波を使ったトランシーバーとは異なり、スマートフォンのインターネット回線を使ったVoIP(Voice over Internet Protocol)によるクラウドベースのグループ通話ソリューションです。これにより、一般的なトランシーバー/インカムではなし得ない様々なメリットが生まれます。

BONX Gripと
BONX for BUSINESSアプリ



30人まで一斉に話せる

一つの会話グループに30人までが参加可能。通常の会話と同様に一方通行ではなく同時に話すことが出来る

通話相手との距離の制限なし

インターネットに接続さえ出来ていればお互いの距離は無制限。日本と海外でも通話することが出来る

混線がなく安定性も高い

デジタルに暗号化された通信で極めて傍受されづらい仕組み。無制限にチャンネルを作れるため、混線による心配は不要

初期コスト不要で簡単に導入可能

お使いのスマートフォンにアプリをインストールするだけで使用可能。追加の重たいデバイスも不必要で業務の邪魔にならない。

どんなマイク付きイヤフォンでも使用可能

純正ヘッドセット「BONX Grip」も含めてどんなデバイスでもOK。コスト優先、電池の持ち優先など使用環境に合わせて選択可能

アプリアップデートで機能が上がる

今後、通話機能の更なる充実やGPS等のスマホベースならではの様々な機能を順次展開

【本リリースに関する報道関係者の皆様からのお問い合わせ】

info@bonx.jp

「BONX Grip」の商品詳細

マイク方式：デュアルマイク

重さ：約15g(*1)

本体サイズ（イヤーループ除）：縦×横×厚み = 約32 × 約44 × 約18mm

バッテリー方式：リチウムポリマー電池

充電方式：マイクロUSB

連続通話時間（BONXアプリ使用時）：約7時間～

待機時間：約400時間

防水性能：IPX5

Bluetooth: Dualmode Bluetooth 4.1 (Bluetooth classic and BLE)

ペアリング済みスマホとの通信距離：最大約10m(Class 2)

対応端末：iPhone 5以降、iPod touch 5th generation 以降のApple製端末、iOS 8以降。

Android 4.3以降の各社端末

同梱物：イヤーループ（3サイズ） イヤーキャップ(2サイズ) ステッカー microUSBケーブル 製品マニュアル

製品保証期間：ご購入より1年間

商品価格：単品15,800円/ 2個セット29,800円

注記事項 *1: 本体に、イヤーループ及びイヤーキャップを装着した実際の使用時の環境でのサイズです

